

四国遍路道研究会報告（第5回）

四国遍路みちにおける、「へんろ転がし」の工学的研究

四国遍路みち研究会

・古い遍路道阿南市一宿寺～第21番札所大龍寺の現地調査報告

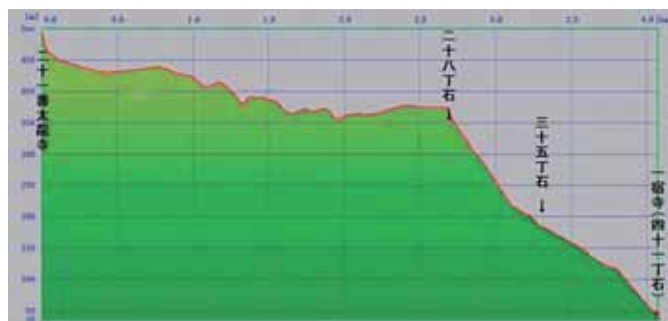
(第13回現地調査 H27.11.14)

平成27年11月14日に「かも道」のへんろ転がしを歩きました。「かも道」については、貞享4年（1687）に僧真念が書いた「四国遍路道指南」に、「一宿寺」から登るルートが古い遍路道であったこととして記されていたことから徳島県教育委員会において、史跡指定に向けて文化財調査が実施されました。

場所は、21番札所太龍寺山ふもと、阿南市加茂町の一宿寺から太龍寺山門に至る古道約4.4kmを「かも道」といい、このうち山門側の約1.34kmが平成27年10月に国指定史跡に指定されております。

この区間は、標高450m程度のなだらかで平坦な遍路道です。最後まで平坦な道であると「へんろ転がし」調査隊の任務

を遂行できないことから、今回は天候具合(全区間雨)と8人の調査隊メンバーの体力等(こちらが本音)の事前調整から、逆打ちで調査。結果、調査終点の那賀川沿いに降りる一宿寺への二



太龍寺～一宿寺縦断面図



十八丁石から四十一丁石の間約1.5kmで、約350～400m下る平均勾配25%強の大変厳しい「へんろ転がし」の実態でした。調査隊一同「順打ちでなくて良かったネ」と一同顔を見合わせることにしきり。



三十五丁 (道標)

かも道の丁石は四角形の角柱で頭部に絞込みがあります。

また、この道沿いには、大きな石を組んだ室(石室)が一定間隔であります。大半が崩れた状態でした。地元の皆さんの協力による



石を組んだ室 (石室「いしむろ」)

復旧・清掃活動をはじめ、年間数回のウォーキングも開催されると聞きます。頭の下がることです。ここでは、季節感を味わい、しっとりとした木立の中を歩くお勧めの遍路道です。



到着地点集合写真 (一宿寺駐車場)

今回のコースには、南北朝時代(1336~1392年)の丁石があります。美しい竹林の中を進むと花崗岩製の三十五丁石があり、南北朝時代に刻まれた「貞治四年正月十三日願主浄繁」(1365年)の銘の上に、新しく「三十五丁」と深く刻んでいることから後に遍路道の丁石として転用されているとのこと。(徳島県教育委員会パンフより)、



出発地点(太龍寺まで0.4km)
※道標角柱頭部の絞込み

遍路道の復元で、最近まで遍路マップ等への紹介もなく、遍路転がし区間以外は大変歩きやすい気持ちの良い道です。

現在「かも道」は、地元住民により結成された「加茂谷へんろ道の会」により道の